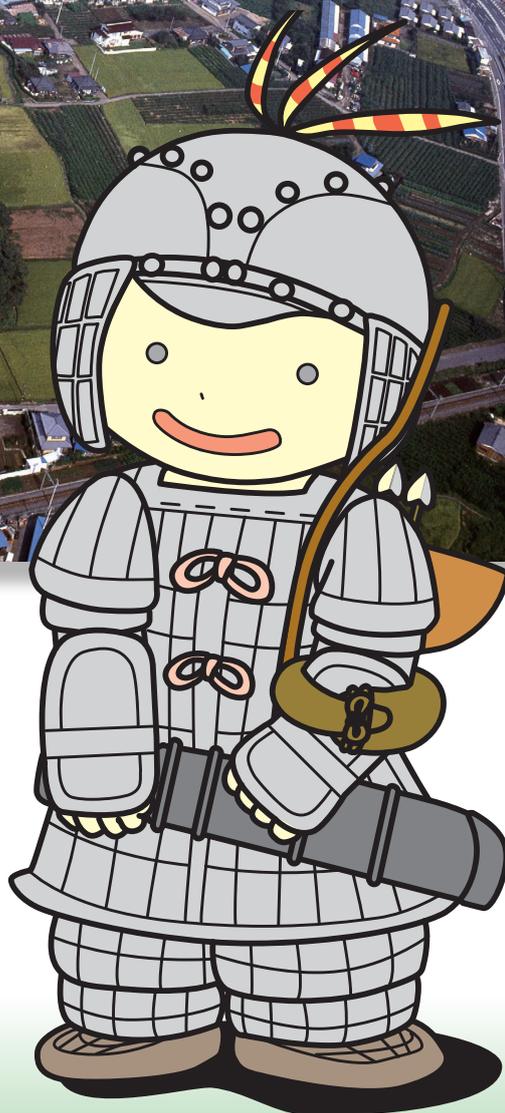
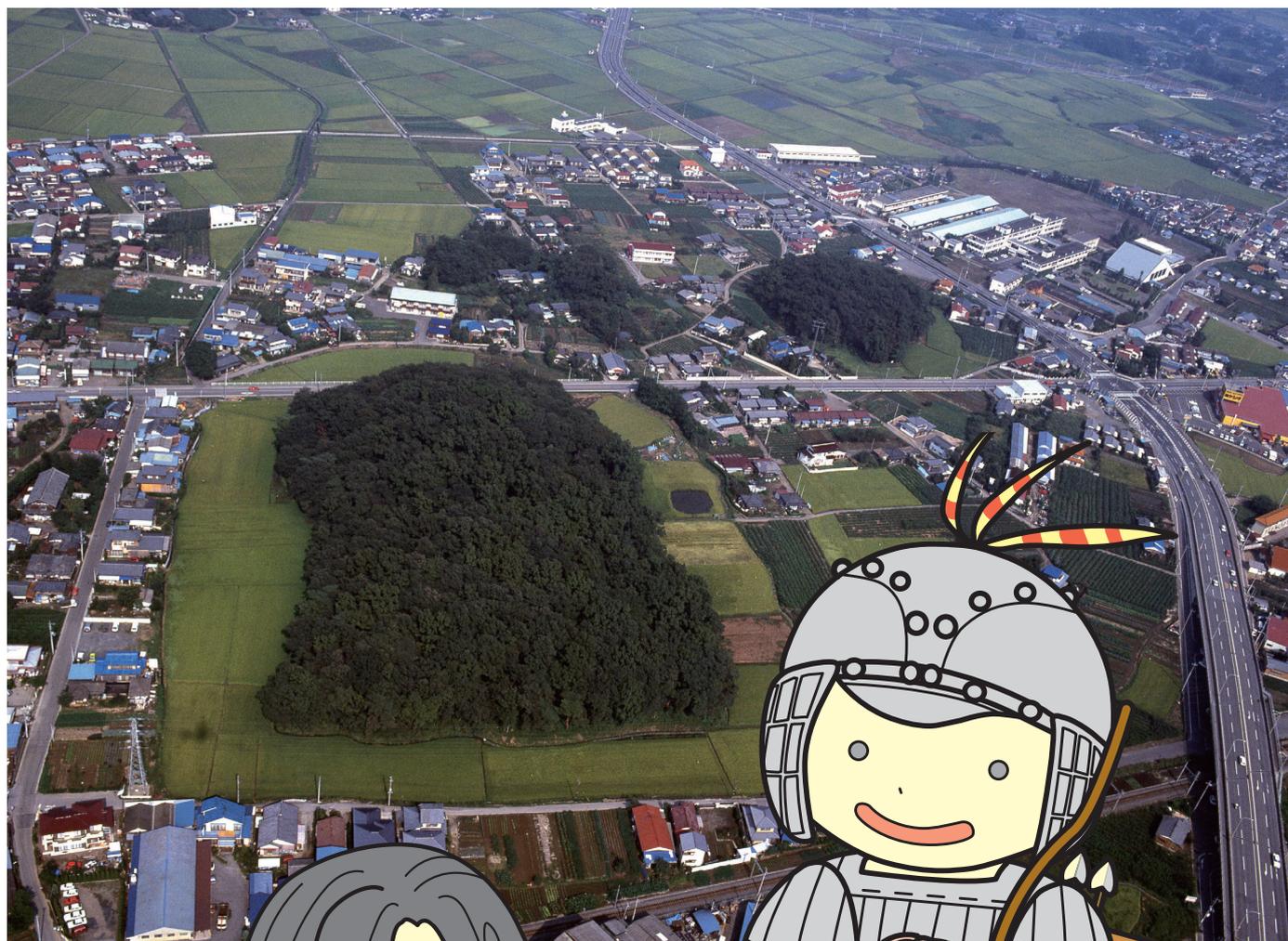


太田市の古墳



わが国では、有力者たちのあいだで弥生時代前期ごろから方形や円形に盛土した墳墓（周溝墓）を築く風習がありました。その後、村々の抗争を勝ち抜いて地域を統合した「クニ」ができる3世紀ごろから、こうした「クニ」の「王」たちは、周溝墓をさらに規模や内容を大きく変貌させた墳墓、つまり「古墳」を築くようになりました。

古墳のかたちには、円墳や方墳のほか、前方後方墳、前方後円墳などといったものがあります。古墳の表面に石を葺くもの（葺石）、まわりに堀（周堀）をめぐらすもの、埴輪を並べ立てるものなど、造られた時期や地域によって、外見にバラエティがあります。また、埋葬施設の構造についても竪穴系や横穴系、棺の形態も木棺や石棺というようにさまざまなかたちがあります。

古墳を調査することは、当時の死生観や、祭祀の一端を垣間見ることができるだけでなく、副葬品や並び置かれた形象埴輪によって当時の生活の様子を知ることができます。巨大古墳の存在は、絶大な政治権力を持った大首長がこの地域にかつて存在していたことを示し、古墳の多さは地方豪族の存在や彼らの勢力の大小を示すものとして当時の社会状況を考える手がかりとなります。

太田市には、3世紀前半から7世紀末までの間に、すでに消失してしまったものも含め、合計約1200基もの古墳が確認されています。その中には、天神山古墳のような巨大前方後円墳もあれば、直径10m程度の小さな円墳もあります。巨大古墳をはじめ、数多くの古墳が立地するわが市は、重要な地であったことが想像できます。

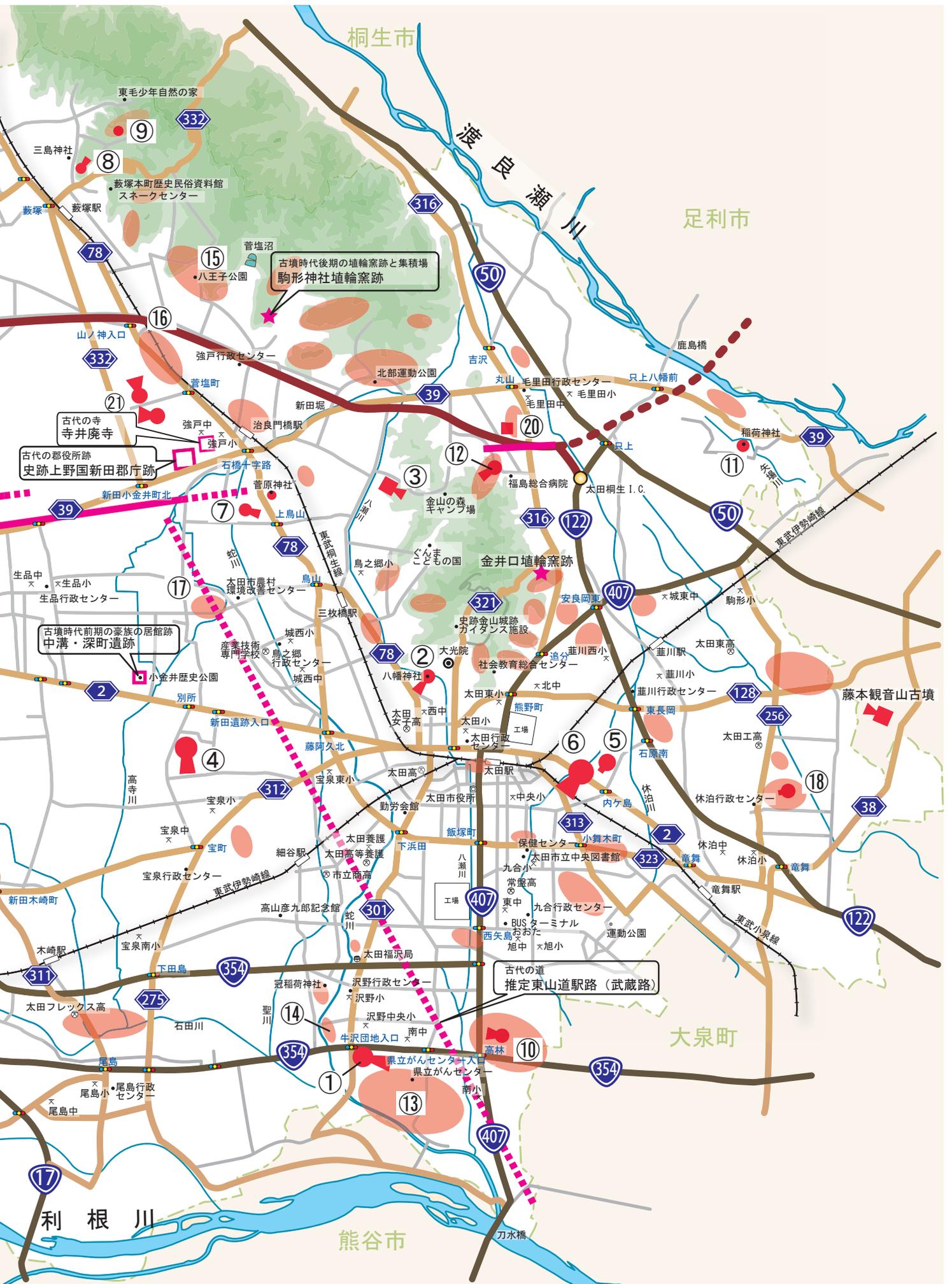
《本書に掲載した古墳》

- ①朝子塚古墳（ちょうじづかこふん）
- ②八幡山古墳（はちまんやまこふん）
- ③寺山古墳（てらやまこふん）
- ④円福寺茶臼山古墳（えんぶくじちやうすやまこふん）
- ⑤女体山古墳（によたいさんこふん）
- ⑥天神山古墳（てんじんやまこふん）
- ⑦鶴山古墳（つるやまこふん）
- ⑧西山古墳（にしやまこふん）
- ⑨北山古墳（きたやまこふん）
- ⑩割地山古墳（わりちやまこふん）
- ⑪市場稲荷山古墳（いちばいなりやまこふん）
- ⑫今泉口八幡山古墳（いまいずみぐちはちまんやまこふん）
- ⑬高林鶴巻古墳群・高林西原古墳群
（たかはやしつるまきこふんぐん・たかはやしにしはらこふんぐん）
- ⑭富沢古墳群（とみざわこふんぐん）
- ⑮西長岡岡山古墳群（にしながおかひがしやまこふんぐん）
- ⑯西長岡横塚古墳群（にしながおかよこづかこふんぐん）
- ⑰脇屋古墳群（わきやこふんぐん）
- ⑱塚廻り古墳群（つかまわりこふんぐん）
- ⑲世良田諏訪下遺跡（せらだすわしもいせき）
- ⑳巖穴山古墳（いわあなやまこふん）
- ㉑二ツ山古墳1号・2号墳（ふたつやまこふん1ごうふん・2ごうふん）

 I.C.	高速道路と インターチェンジ		おもな古墳
	県道		おもな古墳群
	国道		古墳あるいは古墳時代 に関連する遺跡
	交差点		

地図は模式図です。





古墳時代前期

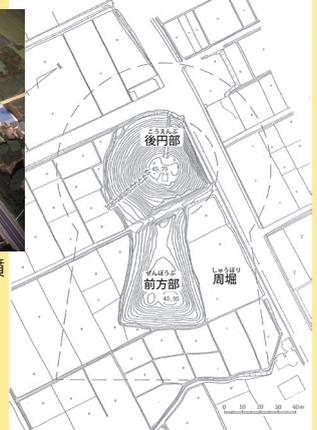
古墳時代前期（3世紀後半～4世紀後半）は、利根川を上り石田川流域の地におろした人々が、^{とねがわのぼいしだがりゆういき} 利根川を上り石田川流域の地におろした人々が、^{こうだいひよく} 広大で肥沃な市域の平野を開拓しはじめた時期であるといわれています。この時期の市域の古墳は、こうした開拓者たちのリーダーの墓であると考えられます。

①朝子塚古墳（昭和54年10月2日 県史跡指定）

高林台地の南西端に立地している全長約123.5mの前方後円墳です。墳丘表面は葺石されています。周堀をもち、前方部側に地割としてその名残が見られます。家形埴輪・盾形埴輪・壺形埴輪などの形象埴輪のほか、円筒埴輪が出土しています。これら埴輪は、古墳の裾と墳頂のまわりに並び置かれ、さらに後円部墳頂には方形に区画するように埴輪列がおかれていたと想定されます。



南東上空から見た朝子塚古墳



朝子塚古墳測量図▶



古墳の所在地：牛沢町1110-2付近（北緯36° 15' 38" 東経139° 21' 41"）

②八幡山古墳（昭和56年12月23日 市史跡指定）

金山丘陵の南西に位置する独立丘陵である八幡山の頂上に立地した、全長約84mの前方後円墳です。墳丘表面には葺石が見られます。埋葬施設は、後円部にある社殿の西側で長方形に割石が詰まった範囲が見られることから、そこに竪穴式石室があるものと想定されます。社殿前面の沓石に使用されている板状の緑泥片岩は、石棺の部材であると考えられています。

大刀と鏡の副葬品が出土したと伝えられていますが、現存していません。そのほか円筒埴輪が出土しており、墳丘を囲んでいたと想定されています。

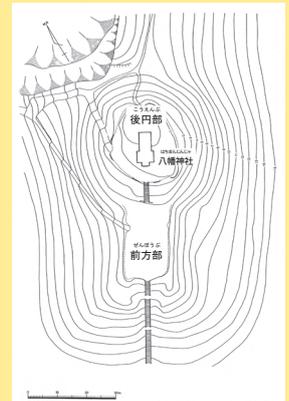
沓石…柱や縁の束柱（つかばしら）の下に据える石。



古墳の所在地：大島町1129ほか八幡神社境内付近（北緯36° 18' 7" 東経139° 22' 3"）



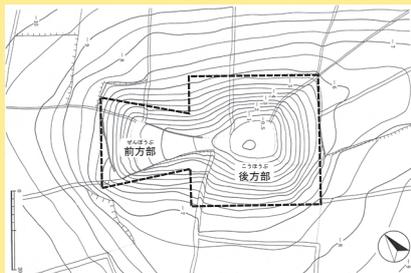
八幡山古墳南側の入り口石段を登った頂上に古墳。



八幡山古墳測量図

③寺山古墳

金山丘陵北西に立地している全長約55mの前方後方墳です。川原石などが墳丘表面に見られることから、葺石されていたものと想定されています。小形器台などの土師器が出土しています。



寺山古墳測量図



北からみた寺山古墳



古墳の所在地：強戸町1560の南西ほか太田さくら工業団地西端（北緯36° 19' 58" 東経139° 21' 44"）

古墳時代中期 ちゅうき

古墳時代中期（4世紀末～5世紀後半）は、巨大前方後円墳が造られるようになります。首長の勢力が増大していった時期であるといえます。当時の太田市域は、畿内大和政権の「毛野国」と呼ばれた地域の中にあり、こうした巨大前方後円墳は、畿内大和政権との深いつながりをもった毛野国の大首長あるいはそれに関連のある人の墓であるとされています。

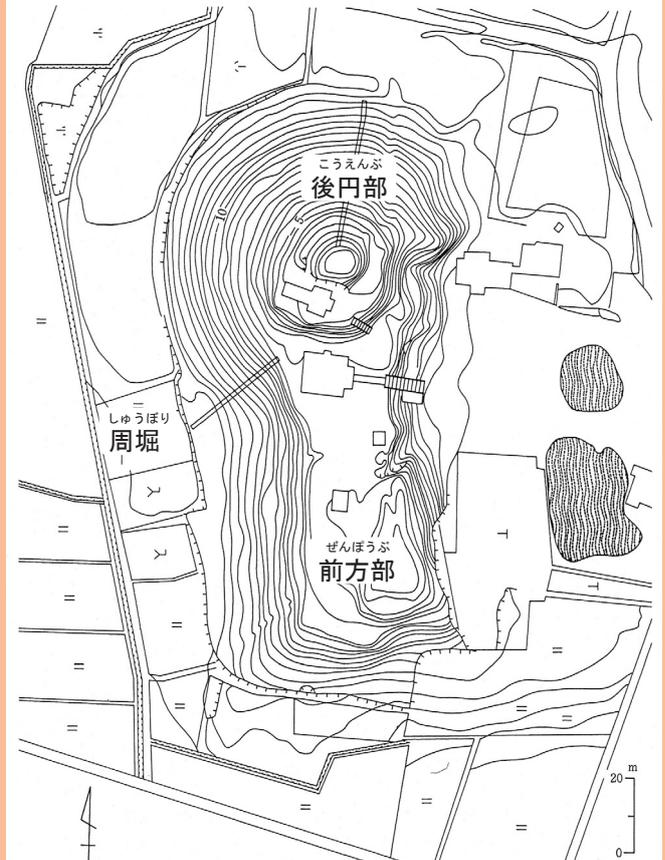
④円福寺茶臼山古墳

（平成12年11月1日 国史跡指定）

由良台地の西縁にある全長約168mの前方後円墳です。周堀は馬蹄形をなしており、前方部側がすばまっています。前方部2段、後円部3段に作られており、各平坦面には埴輪が巡っていたものと想定されます。墳丘表面は葺石されていたものと想定されます。埋葬施設や副葬品等の実態は明らかではありません。



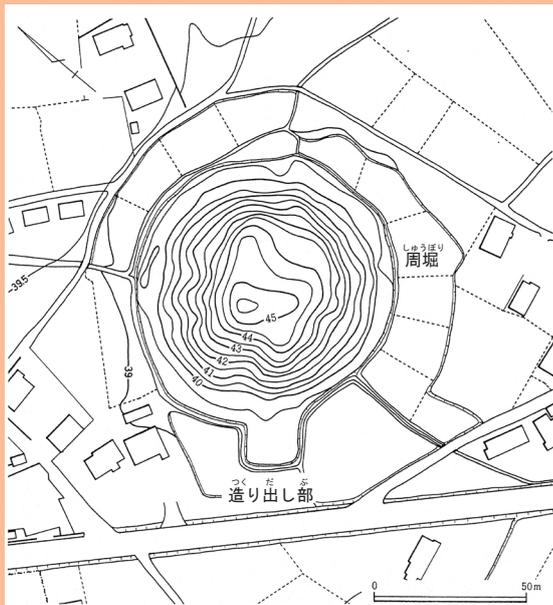
南上空から見た円福寺茶臼山古墳



円福寺茶臼山古墳測量図



古墳の所在地：別所町402の西円福寺境内付近 北緯36° 17' 49" 東経139° 20' 0"



女体山古墳測量図

⑤女体山古墳（昭和2年4月8日 国史跡指定）

天神山古墳の東に造られた全長約106mの帆立貝形古墳（または造り出し付き円墳）です。墳丘表面は葺石されており、円筒埴輪が巡っていたとされています。埋葬施設は竪穴系と推定されます。まわりには周堀が巡っています。天神山古墳と女体山古墳は、ほぼ同じ時期に造られていることや、同じ方向を向いて造られていること、設計企画に同じ尺度を用いている可能性があることなどから、2つの古墳に葬られた人たちの間には密接な関係があったと考えられています。



古墳の所在地：内ヶ島町1506-1ほか
（北緯36° 17' 31" 東経139° 23' 40"）

記号などについて



駐車場



トイレ（男女兼用簡易トイレ含む）



案内表示・説明版



墳丘



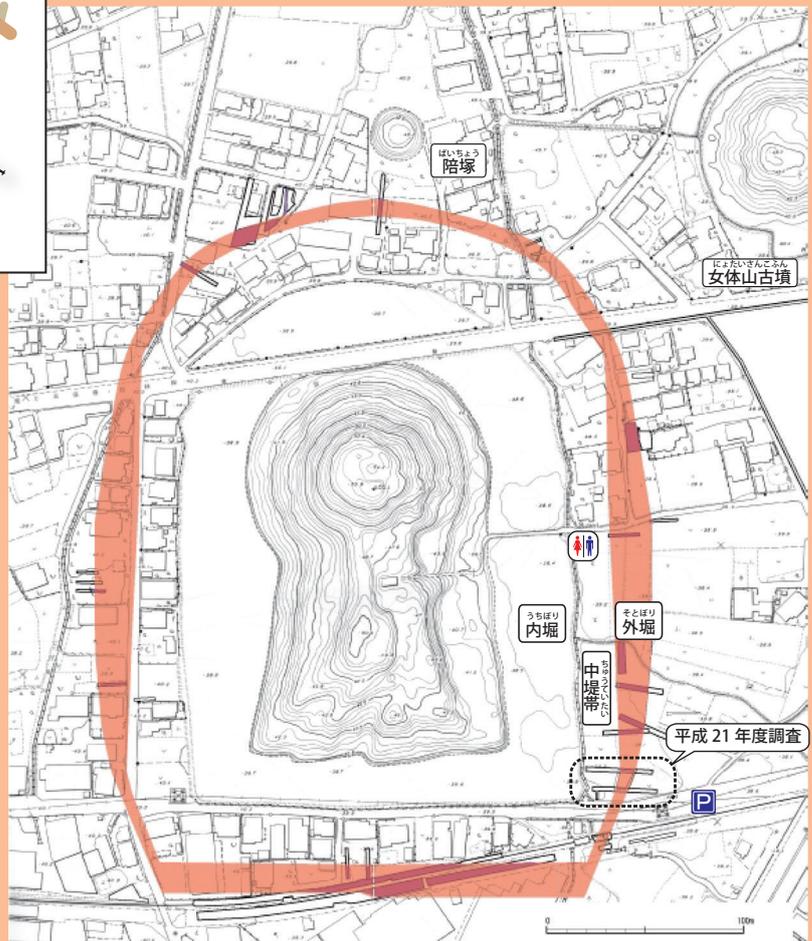
なし（設備がない場合。）

緯度・経度の測地系はWGS84。

⑥天神山古墳 (昭和16年1月27日 国史跡指定)

天神山古墳は、東武伊勢崎線太田駅の東方約1.2kmにある前方後円墳です。全長は約210mを測り、東日本では最大、全国でも26位の規模を誇ります。墳丘表面は葺石されています。埋葬施設はすでに盗掘されており、長持形石棺の一部が転落していました。まわりには二重の周堀（内堀・外堀）が巡り、北東と西に陪塚をもつ、南北約345m、東西約325mにわたり墓域が形成されています。平成20年度に実施された南東側外堀の調査で、外堀の幅が細く狭まる状況が確認されました。この古墳からはこれまでに家形埴輪や水鳥形埴輪（頭部）などがみついているほか、後円部の頂上には器財埴輪が、中堤帯には円筒埴輪がそれぞれ置かれていたと考えられています。

この古墳に葬られた人は、畿内大和政権と強いつながりをもった毛野国の大首長と考えられています。



天神山古墳測量図
赤く塗られた箇所は外堀の下端の想定線。



天神山古墳出土の水鳥形埴輪（頭部）

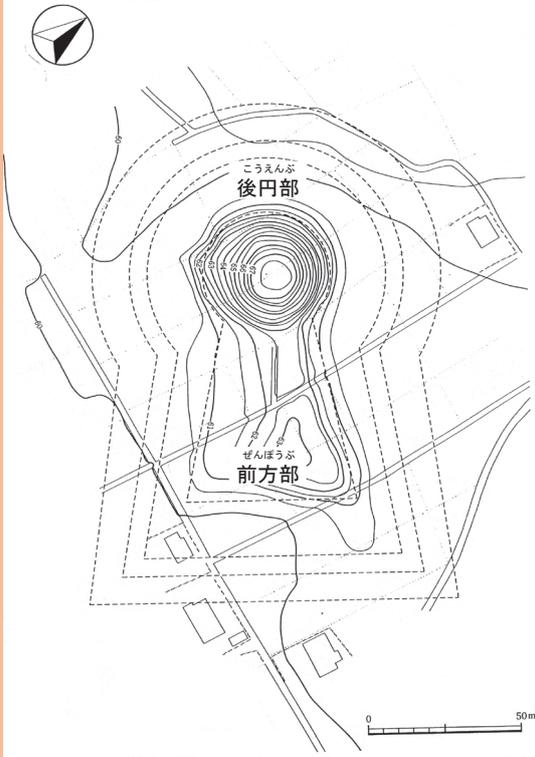


古墳の所在地：内ヶ島町1606-1ほか（北緯36° 17′ 31″ 東経139° 23′ 30″）

⑦鶴山古墳 (昭和26年10月5日 県史跡指定)

上鳥山交差点より西へ約500mにある全長約95mの前方後円墳です。葺石や埴輪の存在は確認されていません。埋葬部は竪穴式石室で、遺骸は組合式の木棺に安置されていたものと想定されます。副葬品は大刀、剣、鎌や斧、槍鉾といった鉄製の武器や農具、石製模造品のほか、甲冑などが出土しています。

天神山古墳に続いて造られた古墳であると想定されますが、これまでに埴輪が確認されていない点で、この時期の古墳としては珍しい例であり注目されます。



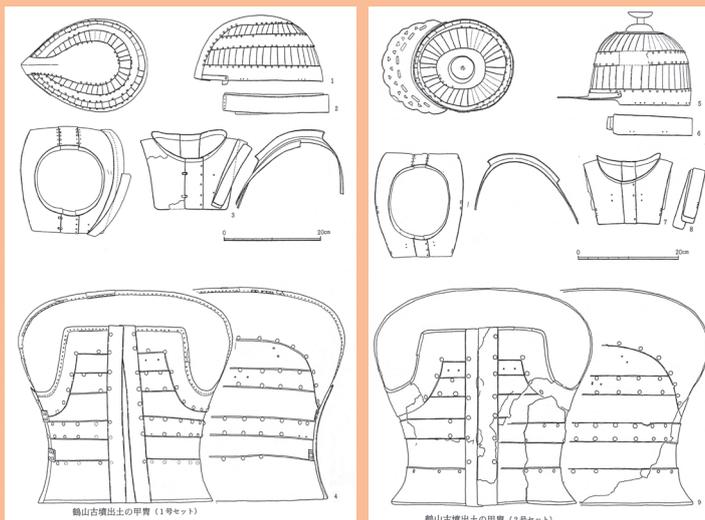
鶴山古墳測量図



南西から見た鶴山古墳の現況



北上空から見た鶴山古墳



鶴山古墳出土の甲冑



古墳の所在地：鳥山上町2140ほか（北緯36° 19' 26" 東経139° 20' 25"）

記号などについて

駐車場 トイレ（男女兼用簡易トイレ含む） 案内表示・説明版

墳丘 なし（設備がない場合。）

緯度・経度の測地系は WGS84。

古墳時代後期

古墳時代後期（5世紀末～7世紀）には、太田市域では巨大前方後円墳は造られなくなり、中小の地方豪族が小形の前方後円墳を造るようになりました。また、村の有力者層たちの他、支配者層でない者までもが、直径10～20mの小形の円墳を、市域の台地あるいは山間部といったごく限られた範囲に密集して造るようになります。（群集墳といえます。）さらにこの時期、古墳の埋葬施設に横穴式石室が採用されるようになります。

⑧西山古墳（昭和24年12月20日 県史跡指定）

八王子丘陵西側にある、北東から南西方向へ延びる尾根の先端部に位置する全長約34mの前方後円墳です。葺石の有無は明らかではありませんが、墳丘の裾と前方部の先端に円筒埴輪列が確認されています。埋葬施設は横穴式石室ですが、副葬品はすでに盗掘されており、詳細は明らかではありません。



南から見た西山古墳石室付近



三島神社脇に
町営駐車場あり。

古墳の所在地：藪塚町3519（北緯36° 21' 47" 東経139° 19' 4"）

⑨北山古墳（昭和24年12月20日 県史跡指定）

八王子丘陵の西側にある南西方向へ延びる尾根に立地している直径約22mの円墳です。葺石の有無は明らかではありません。また、埴輪については確認されていないため、埴輪の配置はなかったものと考えられます。埋葬部は、凝灰岩の割石を使用した横穴式石室ですが、副葬品はすでに盗掘されており、詳細は明らかではありません。



南から見た北山古墳▶



古墳の所在地：藪塚町3442（北緯36° 22' 3" 東経139° 19' 17"）

⑩割地山古墳（開発により古墳は消失しています。）

高林台地上に立地している東矢島古墳群の中にある古墳です。御嶽神社古墳、観音山古墳、割地山古墳などのほか、直径30～40mの円墳が数多く点在していることが、土地区画整理事業にともなう調査で明らかとなっています。

とくに割地山古墳は、すでに墳丘は削られてしまいましたが、全長105mほどの前方後円墳であったといわれています。平成9年度の調査により、石室の残骸が確認され、矢の先である「鉄鏃」のほか、「挂甲」と呼ばれる鎧の部品である「小札」や、馬に付ける装身具である「馬具」が出土しました。



◀現在の割地山古墳周辺



北から見た割地山古墳の石室の残骸



鉄鏃



挂甲の部品である小札



馬具など

古墳の所在地：南矢島町605付近（北緯36° 15' 38" 東経139° 22' 42"）

⑪市場稲荷山古墳

(昭和61年2月1日 市史跡指定)

太田市の北辺、かつての渡良瀬川の旧流路である矢場川右岸に立地した直径約32m、高さ約4mの円墳です。墳丘は葺石されており、円筒埴輪や形象埴輪が並び置かれていました。また、西側には現在堀の跡が残されています。造られた時期は6世紀中ごろと推定されます。



南から見た市場稲荷山古墳



古墳の所在地：市場町488-1付近 墳丘に稲荷神社があります。(北緯36° 19' 53" 東経139° 25' 0")

⑫今泉口八幡山古墳

金山丘陵北にある一支丘の南側斜面にある菅ノ沢古墳群の中にある前方後円墳です。急傾斜地崩壊対策のために行われた擁壁工事に伴う発掘調査等により、全長約60m、前方部端幅約50m、後円部径約29mの前方部がやや開いた形をしている古墳であることのほか、後円部に家形石棺を持つ横穴式石室があることが分かりました。石棺の中を小型カメラで撮影したところ、金銅製の耳環が副葬されていたことが分かりました。そのほか石棺の蓋の上からは須恵器高杯と甃、石棺の手前の埋め土から直刀、短刀、鏢、石室の羨道部からは筒形銅製品やコイル状金銅製品などが出土しました。

出土遺物や墳丘の形態などから、6世紀末から7世紀初頭ごろ築造されたものと思われます。



東上空から見た今泉口八幡山古墳



南入口から見た今泉口八幡山古墳の横穴式石室。奥に家形石棺が見える。



今泉口八幡山古墳の家形石棺 (安山岩製)
蓋：長さ191cm、幅105cm、高さ45cm
身：長さ185cm、幅97cm、高さ54cm



今泉口八幡山古墳出の須恵器
右：高杯 (たかつき) 左：甃 (はそう)



今泉口八幡山古墳出土の埴輪。
笑う人の顔が彫られている。



東側が滅失。
石室は見学不可。

古墳の所在地：東今泉町905の西 北隣に菅ノ沢御廟古墳があります。(北緯36° 19' 46" 東経139° 22' 41")

記号などについて



駐車場



トイレ (男女兼用簡易トイレ含む)



案内表示・説明版



墳丘



なし (設備がない場合。)

緯度・経度の測地系は WGS84。

⑬高林鶴巻古墳群、高林西原古墳群

高林台地北西部に立地している古墳群です。これら古墳群の中には、沢野村63号墳、中原古墳、高林西原公園古墳などがあり、中期から後期にかけて造られた古墳群と考えられます。

沢野村63号墳は、第2次世界大戦中に開墾されてしまいましたが、直径約40mの円墳であったと想定されています。また、埋葬施設の痕跡（礫櫛）が残されています。直刀や馬具、挂甲の小札、鉄鏝が出土しているほか、円筒埴輪および朝顔形埴輪が出土しています。

また、中原古墳は、馬蹄形の周堀をもつ全長約56mの帆立貝形古墳です。円筒埴輪が墳丘裾に沿って巡っていたとされています。埋葬施設は、礫櫛が確認されており、直刀、鉄鏝、短甲、小札が出土しています。

さらに、昭和44年に高林西原古墳群から出土した「人が乗る裸馬埴輪」は、平成5年1月22日に市指定重要文化財に指定され、現在県立がんセンターに展示されています。



高林西原公園古墳（直径約20mの円墳。）



人が乗る裸馬埴輪



古墳の所在地：高林西町617ほか県立がんセンター付近（北緯36° 15' 26" 東経139° 21' 53"）

⑭富沢古墳群

昭和63年から平成5年にかけて市営富沢住宅団地建設に伴う発掘調査が行われ、32基の古墳が確認されました。

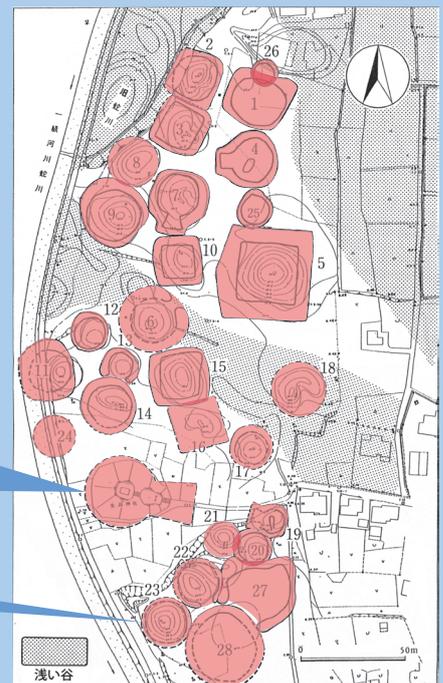
ここは、4世紀後半から6世紀後半にかけて古墳が造られ続けた地で、円墳や方墳、帆立貝形古墳が密集しています。

周辺に水稲耕作に適した広大な低地があり、他よりも経済的に恵まれていたことや、多くの大小河川が集まる水上交通のかなめであり、政治的に重要な場所であったことが推定されます。富沢古墳群は、そのような重要な土地を支配していた首長たちあるいはその関係者の墓であると考えられます。

富沢古墳群がある市営富沢住宅団地は、「歴史と文化とやすらぎのある住宅団地」を基本理念とし、古墳と自生する樹木を極力活かして建設された住宅団地で、現在13基の古墳が現状保存されています。



富沢住宅団地内の公園にある展示施設



現状保存されている市営富沢住宅団地内の古墳



団地内の生品神社にある古墳（沢野村第11号墳）



富沢古墳群平面図（赤で塗った部分が古墳）▶

古墳の所在地：富沢町383市営富沢住宅団地付近（北緯36° 15' 46" 東経139° 21' 6"）

⑮西長岡東山古墳群 (開発により古墳は消失しています)

八王子丘陵の南西面に延びた丘陵には、古墳群が分布しています。西長岡東山古墳群は、昭和60年から平成元年にかけて「八王子山公園」建設に伴う発掘調査がおこなわれ、15基の古墳が確認されました。円墳が多数を占める中、第3号墳とされた古墳は全長は明らかではないが、後円部の径が約30mを測る前方後円墳と推定され、埋葬部の横穴式石室からは、歯のほかに耳環・鉄鏃などが出土しています。一方、直径約12mの円墳と推定される第14号墳には、2基の箱式石棺が確認されています。



南から見た西長岡東山古墳群第3号墳の横穴式石室天井の石が崩落している。



第14号墳 (円墳) の箱式石棺



第3号墳から出土した金銅製の耳環

古墳の所在地：西長岡町1661の東周辺八王子山公園付近 (北緯36° 21' 2" 東経139° 20' 8")

⑯西長岡横塚古墳群 (開発により古墳は消失しています)

大間々扇状地東端に位置する古墳群です。昭和60年に団地管土地改良事業に伴う発掘調査がおこなわれました。調査された3基の古墳は、このとき墳丘や石室が露出していた状態でありました。特に第28号墳は、直径約19mを測る7世紀末の円墳で、2つの埋葬部が確認されました。このうち第2主体部は竪穴式石槨という埋葬部で、家形石棺が安置されていました。石棺の中からは装身具である水晶やガラスの玉類などがみつけられました。



西長岡横塚古墳群 第28号墳の墳丘断面と竪穴式石槨



第28号墳出土の玉類



西上から見た第28号墳の竪穴式石槨。(中央に家形石棺。)

古墳の所在地：西長岡町223の東周辺 (北緯36° 20' 31" 東経139° 19' 47")

記号などについて



駐車場



トイレ (男女兼用簡易トイレ含む)



案内表示・説明版



墳丘



なし (設備がない場合。)

緯度・経度の測地系は WGS84。

⑰脇屋古墳群（開発により古墳は消失しています。）

由良台地の北西縁に分布する古墳群です。土地改良事業等で消滅してしまいましたが、6基の古墳があったとされています。そのうち、オクマン山古墳は直径約36mの円墳で、昭和25年の調査で副葬品のほか、人物埴輪などが出土したとされています。「鍬を担ぐ農夫」や「鷹匠埴輪」（市指定重要文化財）など他の古墳には見られない優品が出土しています。平成12年には、道路建設に伴う発掘調査により、オクマン山古墳の形が再び明らかになりました。



◀現在のオクマン山古墳周辺（東から）



平成12年の調査で確認されたオクマン山古墳（南上空から）黄色で塗られた部分。



鷹匠埴輪（市指定重要文化財）



鍬を担ぐ農夫

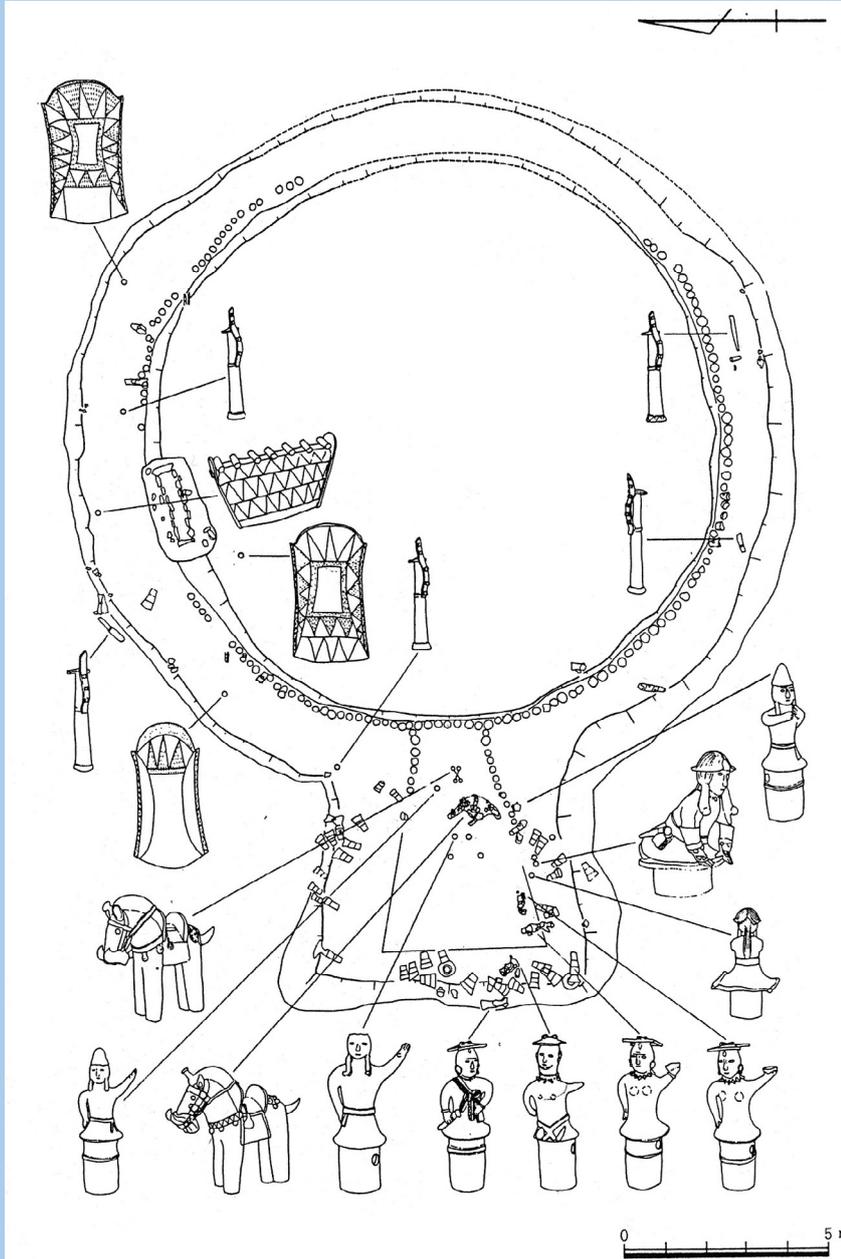


吊いのもうひとつの形
平成12年調査 第95号土坑から出土した埴輪円筒棺（はにわえんとうかん）。朝顔形円筒埴輪3個分をつないで棺として使っています。

古墳の所在地：城西町（北緯36° 18' 43" 東経139° 20' 6"）

⑱塚廻り古墳群 (昭和52年9月20日 県史跡指定)

太田市東部にある沖積低地には、台地が埋没していました。塚廻り古墳群は、6世紀前半から中ごろにかけてこの埋没台地上にあった群集墳です。圃場整備事業に先立って行われた調査により、合計7基の帆立貝形古墳および円墳が確認され、多数の埴輪片が出土しました。特に第4号古墳は、全長約22.5mの帆立貝形古墳で、埴輪は並びおかれた埴輪の残りが良く、当時の埴輪祭式を復元できることなどから、出土した埴輪は国の重要文化財に一括指定されています。



塚廻り古墳群第4号墳の測量図と埴輪の配置



調査で確認された塚廻り古墳第4号墳



整備された塚廻り古墳第4号墳



広大な水田地帯の中にある塚廻り古墳第4号墳 (東上空から)



古墳の所在地：龍舞町3089ほか (北緯36° 17' 7" 東経139° 25' 25")

記号などについて



駐車場



トイレ (男女兼用簡易トイレ含む)



案内表示・説明版



墳丘



なし (設備がない場合。)

緯度・経度の測地系は WGS84。

⑱世良田諏訪下遺跡（工業団地化されており古墳は消失しています。）

大間々扇状地末端部の石田川の南側に位置しています。この一帯はかつて「世良田四十八塚」と呼ばれ、古墳群が存在していましたが、その多くが耕作等により消滅してしまいました。しかし、尾島第2工業団地造成に伴う発掘調査で、5世紀から6世紀後半に築造された多くの墳墓（帆立貝形古墳4基、円墳69基）が見つかりました。ほとんどの古墳は墳丘が削られて周堀だけが残されていましたが、6世紀前半に造られた3号・30号墳については、平安時代に起きた地震に伴う洪水により押し流された土砂が堆積した結果、埴輪群が墳丘の廻りに並べ置かれた状態で残されていました。これらは古墳時代の祭祀の様子を表情豊かに表現しております。



南上空から見た世良田諏訪下遺跡第3号墳
(直径約16.7mの円墳。)



第3号墳から出土した人物埴輪（実際の配置を再現）
左から、楽器を握り踊る女、帽子を被る男、
楽器をかかげる男、楽器を握り踊る女



第3号墳から出土した飾り馬と馬子
(実際の配置を再現)



南西から見た世良田諏訪下遺跡第30号墳
(直径約15.2mの円墳。)

第30号墳から出土した埴輪
左から琴を弾く男、王冠を被る
男、巫女、馬子、飾り馬



古墳の所在地：世良田町（北緯36° 16′ 4″ 東経139° 17′ 18″）

古墳の終焉

仏教信仰が普及したことによる「人を葬る」価値観の変化と、大化の改新の詔にもなって出された「薄葬令」による墓造営の制限などの影響から、古墳を造営する風習は次第に姿を消してしまいました。

⑳ 巖穴山古墳 (昭和50年9月22日 市史跡指定)

金山丘陵の北東にある一辺約36.5mの方墳です。周堀が巡り、玄室と羨道の間に前室を持つ横穴式石室を持っています。遺物として刀装具・耳環・銅製品・須恵器・土師器などが確認されており、古墳時代終末期の7世紀中ごろに造られたと想定されます。この古墳の周辺には金山丘陵・八王子丘陵には、須恵器・瓦・鉄の生産跡が分布しており、埋葬された人はこれら生産に携わった人々を統率する立場にあった地方の有力者であったと想定されます。



南から見た巖穴山古墳



巖穴山古墳の横穴式石室内部



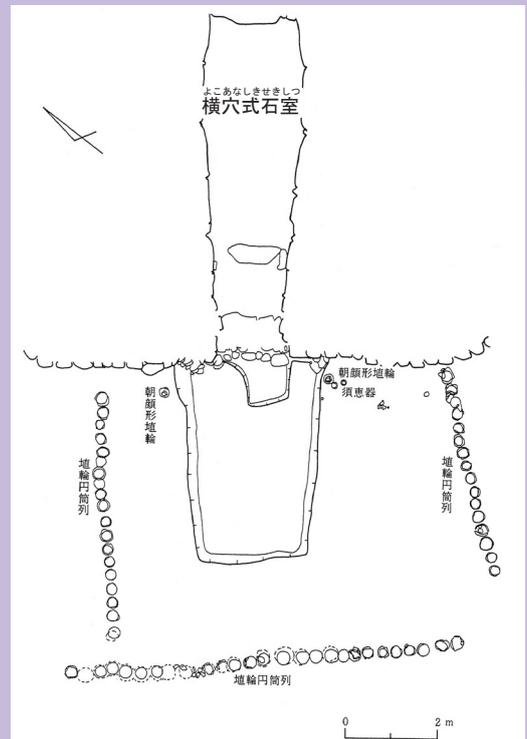
古墳の所在地：東今泉町752 (北緯36° 19' 51" 東経139° 22' 54")

㉑ ニツ山古墳 (1・2号) (1号墳 昭和23年11月2日県史跡指定、2号墳 昭和59年7月3日県史跡指定)

東武桐生線治良門橋駅の北西約1.3kmにある2つの古墳です。1号墳は全長約74m、周堀をもち、墳丘斜面には葺石をもつ前方後円墳です。墳丘は2段に作られており、裾に2列の円筒埴輪列がめぐり、形象埴輪が置かれています。また埋葬部は横穴式石室で、石室の入口に円筒埴輪を四角く並べおいた空間が見られます。副葬品は、大刀、馬具、武具、金環等が出土しています。2号墳は全長約45m、周堀をもち前方後円墳で、『上毛古墳綜覧』によれば、出土遺物等の記載がないが、横穴式石室をもっています。1号墳の後に作られた古墳であると推定されます。



東上空からみたニツ山古墳



1号墳の石室平面図
入口に埴輪が並べ置かれていた。



古墳の所在地：天良町167-85-乙、167-乙-172 (北緯36° 20' 11" 東経139° 19' 42")

記号などについて



駐車場



トイレ (男女兼用簡易トイレ含む)



案内表示・説明版



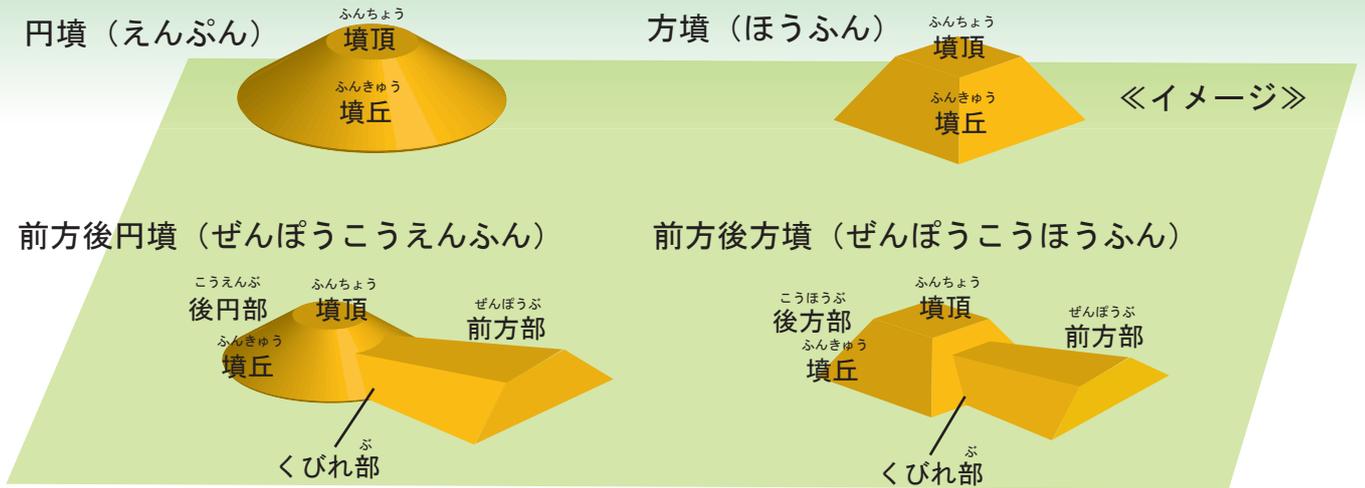
墳丘



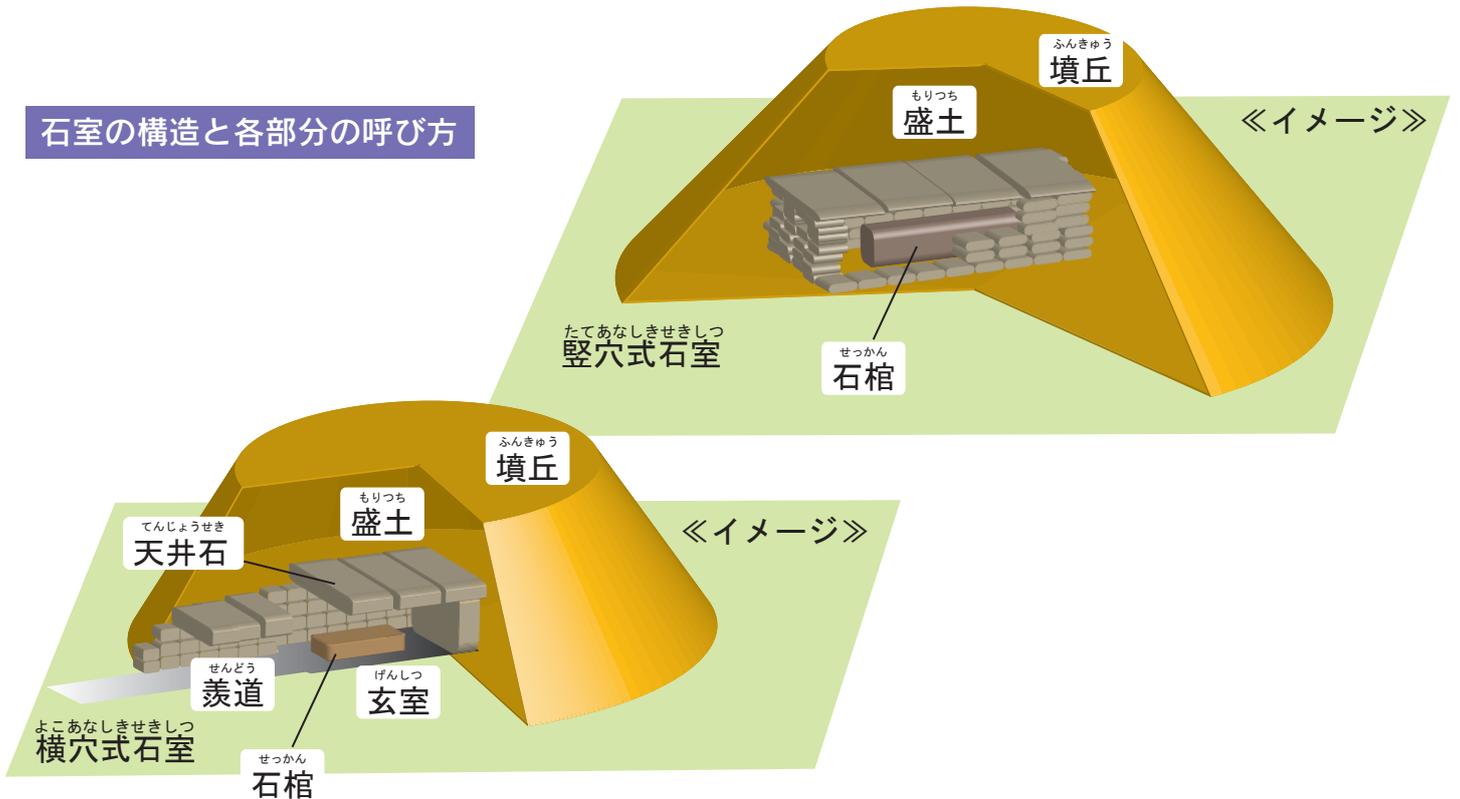
なし (設備がない場合。)

緯度・経度の測地系は WGS84。

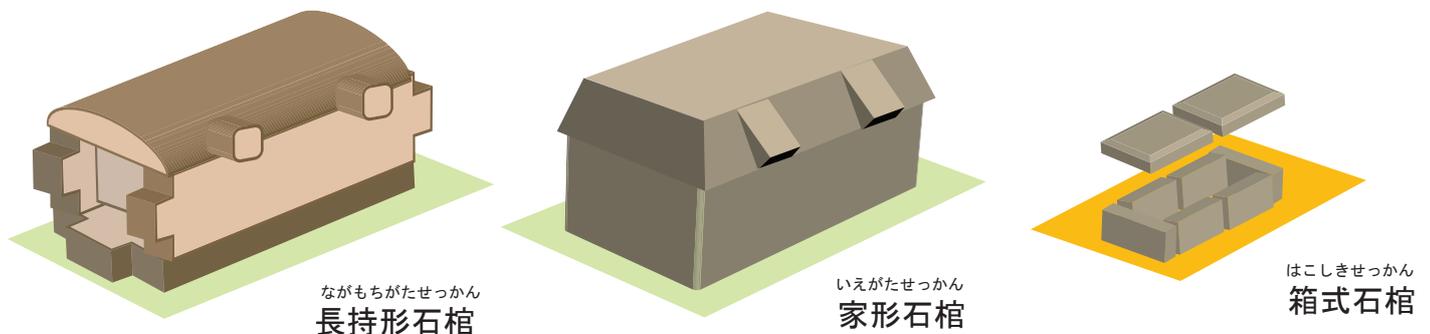
太田市内のおもな古墳の形と各部分の呼び方



石室の構造と各部分の呼び方



石棺のいろいろ 《イメージ》



太田市教育委員会 文化財課
 〒370-0495 群馬県太田市粕川町520
 TEL.0276-20-7090 FAX.0276-52-6080
 印刷 平成22年3月